

シリーズ「国土教育」

宮本常一が最重要視した「交通網の確立」と「地元の意識」



来年3月完成を目指す新1号橋

天草五橋 Hand in Hand 「指切りげんまん」世界一！

「ありがとう天草五橋 がんばろう熊本」



指切りげんまん
ギネス世界記録
(1658人)

天草五橋開通50周年を祝う天草五橋祭が9月24〜25両日、開催された。白龍船競漕大会や魚のつかみ取り大会等の他、蒲島郁夫知事や堀江隆臣上天草市長らが出席した記念式典、同市出身の放送作家小山薫堂さんや、俳優片岡鶴太郎さんらによるシンポジウムなども開かれた。熊本日日新聞は2週間前から特集企画「パルラインの行方」を連載し、25日の朝刊に「天草五橋開通50年 観光復興の弾みにしたい」という社説を掲載した。社説にはインフラのストック効果を考えるヒントが凝縮されている。

五橋祭のメインイベントはと想いを唱えた。指が離れて2号橋〜4号橋間約2・2キロ記録は1658人だったが世界記録達成となり、五橋の歴史に「世界一」が加わった。「Hand」。五橋開通で「ひ」と・もの・文化」等の交流進展に感謝し、島内外の参加者が橋上で手をつなぎ「天草から元氣と勇気を送ろう！」と、天草地域観光推進協議会(VISITあまくさプロジェクト実行委員会)の主催で「指切りげんまん」のギネス世界記録に挑戦。2267人が指切りをして並び「ありがとう天草五橋、がんばろう熊本」代表する民族学者の宮本常一

先人たちの苦労話も

氏も天草を訪問。後の著作『社会開発の諸問題』日本の中央と地方(宮本常一著作集2)の記述を要約する。「その国の文化の高さは、民族の意志が国の隅々にまで行きわたっているかどうかにある。(中略)国の隅々にまで民族のもつ理想を行なうため最も大切なのは交通で、交通網の確立が根本問題になるのではないか。(中略)私は今離島の世話をしているが、離島でもすぐアスファルトの道、観光道路を造らなければ駄目と、血道をあげている」「地域開発というのは、自分たちの土地をどうしたらよいかという人たち、真剣に自分たちの土地の問題を、自分たちで解決しようという人たちが育ってこない限りありようがない」天草五橋の開通とその後天草地域の発展は、宮本の言う地域開発(離島振興)の典型的事例だった。

地元紙に見るインフラのストック効果

制度インフラと装置インフラ

「インフラストラクチャー(infrastructure)」とは、「社会を下から支える基礎構造」を意味し、法律などの「制度インフラ」と、道路や港湾などの「装置インフラ」に分類することも可能である。

天草地域の半世紀間に当てはめれば、1953年(昭和28年)の離島振興法の指定と56年(同31年)の国立公園の指定が「制度インフラ」で、66年(同41年)の五橋開通が「装置インフラ」になる。この両輪により、天草地域は振興・発展したと言える。

この間の経緯を地元紙熊本日日新聞の社説は、以下のよう述べている(要約)。

天草五橋が24日、開通50年を迎えた。離島の天草と九州本島をつなぎ、半世紀にわたって生活と観光の両面で熊本を支え続けた宝である。これからも大切に活用したい。(中略)五つの橋は、それ自体が観光資源でもあった。天草全域に3千台しか自動車が多かった開通当時、1日最大1万3千台が五橋を利用。パルライン(約15キロ)の32億円近い事業費の償還は、当初30年かかると予想されたがわずか9年で完済した。

天草各地に旅館や土産物店が次々開業し、観光地としての街並みが形作られた一方、30航路以上あった天草郡市と九州各地を結ぶ船便は、現在11航路に減った。五橋は50年間で天草の「かたち」を変えた。現在の五橋は平日でも1日1万7千台が利用し、橋上で車が数珠つなぎになること

も。一方で観光客数は伸び悩み、この10年は390〜440万人と、県が掲げる目標470万人に及ばない。近まった本島との距離感も「天草離れ」も加速させ、開通時約20万人だった天草全体の人口は12万人を切った。県は渋滞緩和などを目的に、来年3月完成を目指す新1号橋の建設と高規格道路「熊本天草幹線道路」の整備を急ぐ。この地元紙の社説こそが、本場の意味でのインフラのストック効果だと思える。

点描

道の駅

国道愛好家

松波成行

「寿限無、寿限無五劫の擦り切れ」と始まる落語「寿限無」。生まれた子供の名前に縁起を担いで長い名前を付ける親の癖(はなし)です。実際に企業名や組織名でも合併などで「寿限無」となることがあります。ローマ字表記にすると一層に長くなり、外国人に伝えるにも苦勞をする場面は、商談でも場を和ませるマクラにもなるほどです。

今、日本の高速道路にも番号が付されようとしています。日本語では4文字の「東名高速」も英表記では「TOMEI EXPWY」(10英文字)。それが番号化によって1号の意味の「E1」へ。

長い表記の高速道路になると、最長では23英文字の「TOKYO WAN AQUA-LINE EXPWY」(東京湾アクアライン)。こちらは環状を表すCを付して「CA」といった具合です。

日本人にとってはご利益が少ない番号化も今後、間違いなく増加する訪日外国人の立場としてみる必要があります。時速100キロで走る車では1秒間に30を動く世界。例えばカーナビが発達したとしても、ドライバーは瞬時に視覚や聴覚を頼りに、見知らぬ土地のルートを判断しなければなりません。

道の駅でもローマ字表記をすると「寿限無」となる駅も少なくありません。将来、集客増加を外国人にも頼るなら、駅名の番号化も無縁ではないでしょう。数字は世界共通のコードであり、最も優れた認知方式。道の駅の普及の次なる睨みにもつながります。

遺産の推薦候補となったことも観光面で追い風となる。熊本地震の爪痕が今なお深い県内で、ほとんど無傷といえる天草観光の魅力は希望に満ちている。「開通50年」を前に国内外へ情報を発信し、観光キャンペーンを展開するなど、官民挙げて天草を元気にし、熊本全体の観光復興へ弾みをつけたい。

国土学アナリスト 森田康夫